令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大東小学校 ）　　学校番号　025

【様式】

学校教育目標	自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間性豊かな児童の育成
目指す学校像	みんなキラキラ　さわやか笑顔の大東小学校を目指して「夢と希望の溢れる学校」「よさを見つけて伸ばす学校」「家庭や地域社会と共に歩む学校」

重点目標	１　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による自立した学習者の育成	（学びの質の向上）
	２　生徒指導体制、教育相談体制の充実による児童のよさを伸ばす教育の推進	（子どもの発達や心のサポート）
	３　地域とともに児童の健やかな成長と安全を見守る持続可能なコミュニティ・スクールの推進	（地域とともにある学校づくり）
	４　教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進	（教育環境の整備）
	５　誰もが働きやすく、一人ひとりが力を発揮することができる教職員集団の醸成	（教職員のキャリア形成）

達成度			
達成度	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価 実施日令和８年２月１８日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査において、平均正答率は、全国、市を下回った。 ○さいたま市学習状況調査においては、全国学力・学習状況調査と比較すると、市の平均正答率との差が大きく縮まった。 ＜課題＞ ○解答を記述する問題の無回答率が全国、市と比較して高い傾向であった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。 ○「国語・算数・理科の勉強は好き」「国語・算数・理科の授業の内容はよく分かる」について、肯定的な回答は高いが平均正答率に結び付いていない。ICT の効果的活用を図りながら、各教科の本質に触れさせ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を確実に育む授業改善を行うことが必要である。	・思考力、表現力の向上に向けた授業改善	○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリングを受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の学力向上を図る。 ○児童が学習方法を選択しながら、じっくり思考したり、自分の考えを伝えたり、議論したりする活動の充実を図り、思考力、表現力の向上を図る。	①調査結果の分析や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し、実践することができたか。 ②市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率が前年度より向上したか。	①学力向上カウンセリング学校訪問を 8 月に実施後、データを活用した授業改善について、学年会の教材研究で検討し実践している。 ②1 月実施の市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率は同一集団で 2.8 ポイント向上した。	A	○調査結果にあわせてスクールダッシュボード等のデータも活用しながら、個別最適な指導・支援の充実を推進する。 ○研究の成果をもとに、「思考力・判断力・表現力」と「知識・技能」をバランスよく育成できよう、各教科の「見方・考え方」を働かせる授業改善を推進する。	・「思考力・判断力・表現力等」の向上は素晴らしい。市の平均値と比較するとどの程度なのか興味がある。次年度は、「知識・技能」もあわせて高める取組を進めること。 ・タブレットの活用率は高いが、効果的に活用できているかが大切である。今後も、タブレットの活用については、研修を進めること。 ・生成 AI ですぐに答えが出る時代だが、リアルな学びを大切する取組も進めることを期待している。
		・児童が主体的に取り組む個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る授業改善	○全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行うことで、児童が自らの学習状況を把握し、目標をもって学習できるようにする。 ○Teams、ｵｸﾘﾝｸ、One Note Class Notebook、Forms、Canva、SSDB 等、ICT も効果的に活用しながら、個別最適で協働的な学びの充実、主体的・対話的で深い学びを実現する。	①児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ②市学習状況調査において、「ICT を活用した学び」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。	①調査後は、担任とともに振り返りを行い、今後の学習について考えた。12 月実施の市学習状況調査該当項目（5・6 年）において肯定的な回答の割合は、91.6%であった。 ②市学習状況調査該当項目（3～6 年）において、肯定的な回答の割合は 92.6%であった。昨年度 79.2%、さいたま市 52.4%と比較して非常に高い活用状況であった。	A	○端末更新の準備・操作研修を進め、引き続き ICT の文房具化を継続する。また、発達段階に応じた活用、情報モラルの指導等について研究を進める。 ○ICT を活用したデジタルな学びと、体験的な活動等のリアルな学びをベストミックスさせ、児童に学ぶ喜びや楽しさを実感させる。	
2	（現状） ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は 89.8%で全国、県の平均を上回ったが、市の平均は下回った。 ＜課題＞ ○子どもたちの悩みや家庭の状況が多様化しており、一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に適時、適切に支援していく必要がある。 ○不登校をはじめ、教室に入れない児童の増加に伴い、誰一人取り残さない学びを支援し、保障する体制の充実が課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援、相談に向けた校内体制の充実	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通して、いじめの認知について共通理解する。 ○各種アンケート、保護者面談等から得られた情報を基に、SSW、SC 等の専門職、関係外部機関とも連携しながら、迅速かつ組織的に対応する。	①学校評価「相談対応」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。 ②組織的かつ迅速な対応が必要な場合には、ケース会議を開催し、具体的な手立て等を共有して対応することができたか。	①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 91%、保護者 89%であった。 ②定期的に児童理解研修を実施、要配慮児童の情報を共有の上、必要に応じて生徒指導・教育相談部、SC,SSW、外部機関等も含めて組織的、継続的に支援に当たった。	B	○いじめについては、全教職員でいじめの定義を共通理解し、引き続き「積極的な認知」「いじめ見逃し『０』」の姿勢で取り組む。 ○SC,SSW、外部機関等と積極的に連携を図り、複雑化する児童の悩みや家庭の状況に対応する必要がある。	・いじめの認知件数が増えることはよいと思う。些細なことでもこれはいじめだなと思ったら積極的に認知して早期発見、早期解決に尽力すること。 ・児童に「こんなこともいじめなのか」と考えさせたり、いじめ認知件数を児童に知らせたりすることで、いじめ防止の意識を高めること。
		・多様な学びを支援する体制の充実	○児童の多様な学びを支援するために、Sola るーむの活用をはじめ、オンライン授業の提供をするとともに、学習支援ボランティアの増員等、持続可能な運営体制を整備する。	③支援が必要な児童に対して、Sola るーむの有効活用、オンライン授業の提供が十分にできたか。	③Sola るーむを 3 名の児童が利用し、2 名が教室で授業を受けられるようになった。また、学習支援ボランティアを導入し、支援を継続している。今年度、オンライン授業提供に該当する児童はいない、	A	○「Sola るーむ」を円滑に運用し、要配慮児童への支援をさらに充実させる。ボランティア募集の継続、行政へのボランティア配置要請を行う。	
3	（現状） ○学校運営協議会では「あいさつ」「コミュニケーション」「エージェンシー」について熟議を継続している。学校、地域、家庭の連携、取組充実ための方策等を検討することができた。 ○学校、家庭、地域が連携して、多くの地域行事を開催した。子どもたちに地域行事の楽しさや地域のよさを味わわせることができた。 ＜課題＞ ○学校運営協議会の充実に向け、児童の参加による活性化、家庭、地域への情報発信による協働体制の構築が必要である。 ○コロナ禍以降、ＳＳＮ会議や民生委員連絡会の開催がない。連携強化を図る必要がある。	・持続可能なコミュニティ・スクールの推進	○学校運営協議会において「あいさつ」「コミュニケーション」「エージェンシー」について熟議を継続し、持続可能な目標、取組を設定し推進する。 ○多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」「教育活動」等の情報を積極的に発信して共通理解、連携を深める。	①学校評価「あいさつ」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。 ②学校評価「学校教育方針」「教育活動公開」において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。	①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 85%、保護者 71%であった。児童会を中心にＰＴＡ、中学生等と連携して活性化を図った。 ③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、前年度比で児童+2pt(90%)、保護者+1pt(93%)であった。	B	○今後も児童会が中心となり、あいさつの啓発活動を継続し、あいさつが行き交う学校づくりを推進する。 ○今年度は多くの機会で保護者、地域の皆様に来校していただいた。この実績をベースに、授業や行事等の公開、情報発信の方法について、工夫改善を継続する。	・あいさつは、人とのつながりをつくる上で大切である。あいさつを通して、お互いに声をかけやすい関係となり、そこから協働する体制が生まれる。引き続き児童主体のあいさつの啓発を続けること。 ・第２回の学校運営協議会で出た「落ち葉清掃」をすぐに実行したことは対応が早くて素晴らしい。
		・児童の活躍の場の創出による社会貢献意識・帰属意識の醸成	○児童会を主体とした校内や小中連携のあいさつ運動、ＰＴＡ、地域、ＳＳＮと連携した教育活動、行事等を実施しながら、児童のエージェンシーを育む。	①市学習状況調査「地域」「主体的な態度」に係る項目において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。	①市学習状況調査該当項目において、肯定的な回答の割合は、前年度比で±0pt(88%)であった。 第２回学校運営協議会でいただいた意見をもとに、児童の落ち葉清掃を３回実施した。	A	○児童代表が、学校運営協議会委員との対話を通して、よりよい学校、地域について考え、発信することで、児童が様々な課題を自分事として捉え、主体的に解決に取り組むエージェンシーの育成に取り組む。	
4	（現状） ○昨年度、施設設備の不備等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。学校管理下のけがで医療機関を受診した件数は６７件であった。 ＜課題＞ ○施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童が自ら危険を予測したり、安全に行動したりする力を育むことが課題である。	・安全で整備された教育環境の提供	○安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね１週間以内)を基盤に、安全な教育環境整備を進める。	①学校評価「教育環境整備」に係る項目において、肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。	①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 93%、保護者 89%であった。施設設備不備による事故０であった。	A	○安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね１週間以内)を継続し、安全な教育環境整備を進める。	・夏は学校が高温になり熱中症が心配である。児童の健康を守る環境づくりに取り組むこと。 ・交通安全については、例えば、自動車の運転者の立場で考えさせるなど、工夫した取組を期待している。
		・児童の安全意識の向上	○交通安全教室、自転車運転免許講習、避難訓練、引渡訓練、ケータイ・スマホ安全教室、ASUKA モデル、薬物乱用防止教室、金融リテラシー教育等、児童が安全について主体的に考える体験的学びを充実させる。	①学校評価「健康・安全」に係る項目において肯定的に回答する割合が 90%以上となったか。 ②学校管理下のけがで医療機関を受診した件数が前年度を下回ったか。	①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童 92%、保護者 95%であった。 ②1 月末現在、46 件で、前年度同時期と比較して、-5 件である。	A	○各取組を通して、児童が安全について主体的に考える体験的な学びを継続し、危険を認知、予測し、安全な行動がとれる態度を育成していく。	
5	（現状） ○リーディング DX スクール事業指定校として、エバンジェリストを中心に、ICT を効果的に授業で活用していくための研修を自走スタイルで行い、「教育 DX」を推進した。 ○学校行事や業務改善に活用するためのアイデアを積極的に取り入れ、教職員も参画する働き方改革を進めている。 ＜課題＞ ○初めて教職につく教員や経験が浅い教員、異動してきた教員が自信をもって子どもに向き合うための支援、研修体制の構築が必要である。 ○児童の心に寄り添い、認めて、ほめて、伸ばす指導（コーチング）を通して、児童のエージェンシーを育む必要がある。	・一人ひとりがスキルアップを図り、力を発揮することができる教職員研修の推進	○研修主任、学校 DX 推進部を中心に自走する研修を推進するとともに、教職員からのアイデアを収集し、授業改善や業務改善に積極的に取り入れる。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。 ○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」「キャリア navi」「カリマネ支援パッケージ」等を基に指導助言する。 ○「学びの指標」アンケートで「主体的な学び」「探究的な学び」「ICT の効果的な活用」「基礎的な授業スキル」について、集計シート、チェックシートを活用しながら学習者目線で授業改善を行う。	①教職員のアイディアを積極的に生かし、年間５つ以上の授業改善、業務改善に向けた新たな取組を実施できたか。 ②学校評価「教職員研修」において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。 ③学校評価「授業改善」において、肯定的に回答する割合が 85%以上となったか。 ④「学びの指標」アンケートにおいて、第１回（6 月実施）の課題となる項目について、第２回（12 月実施）で改善が図られたか。	①「学校外からのチラシ等デジタル配信」「集金方法の変更」（準備中）の 2 件で、教職員の発想を基に業務改善を推進している。 ②学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、77%であった。「自走スタイル」の研修が定着した。協働授業づくり、授業提案、相互授業参観、フィードバックが日常的に実践され、学び方、教え方の改善が着実に進んでいる。今年度は、研究発表会を開催し、約 90 名の参会者に本校の研究成果を発信した。 ③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、教職員 98%であった。 ④学びの指標アンケート「主体的+0.07」「探究的+0.02」「ICT+0.1」「基礎+0.02」となり、全項目で数値が向上した。	B	○本校の特長である ICT を生かした教育 DX（学び方改革・教え方改革・働き方改革）を継続し、児童、教職員にとって Well-being な学校づくりを推進する。 ○ICT の活用については、人事異動によるスキル、取組の差が課題となるので、次年度以降も ICT 活用研修を充実させ、継続的に学ぶことができる環境づくりを行う。 ○「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」、「授業観察による指導助言」を充実させ、年次・経験等に応じて教職員のスキルアップを支援していく。	・ICT を使えばよいというものではない。本校でもタブレットを活用している教員がたくさんいるが、児童が効果的に活用できているか疑問がある。学びが深まっているかを大切にしながら、今後も研究、研修を進めること。 ・全体的に「B」が多く、謙虚な評価である。８割以上達成で「A」なので、「がんばったんだぞ」と、堂々と「A」としてもよい。